

**第1回**  
**次期札幌市観光まちづくりプラン**  
**検討委員会資料**

**令和4年7月14日**

# 次期プラン

## 現プランの検証

## 【成果指標からの評価】

各指標ともに、コロナ禍以前までは順調に増加しており、取組の成果が見られる。ただし、道外・海外の消費単価は、伸び悩みが見られ、課題が残る

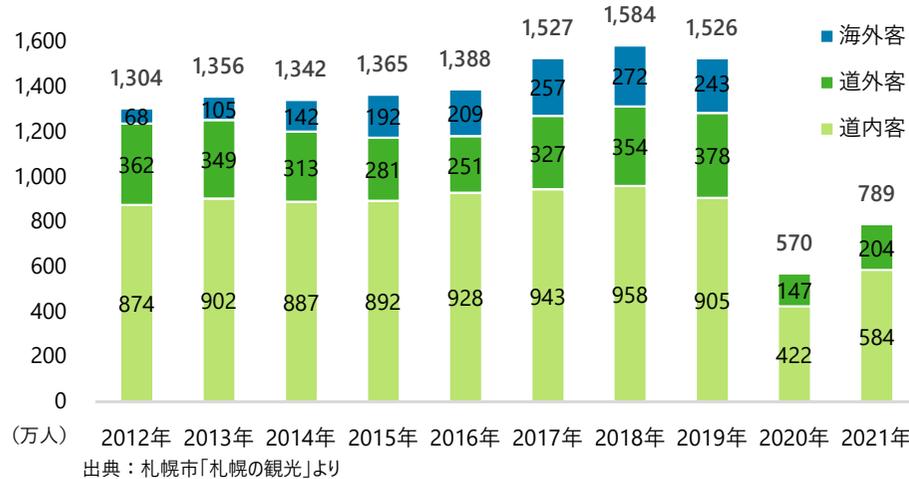
- ✓ 年間来客数および総観光消費額は、2018年度に目標の88.0%、82.6%まで達したが、コロナ禍の影響が長期化し、最終目標には届かない見込み
- ✓ 観光消費単価は、道外および海外の単価が2016年度をピークに下降
- ✓ 平均滞在日数および再訪意欲は着実に増加してきたが、コロナ化以降はサンプル数減等により評価が難しい

成果指標	単位	当初値 (2012年度)	目標値 (2022年度)	実績 (2021年度)	達成率				
					2021年度	ピーク時			
年間来客数	万人	1,304	1,800	789	43.8%	1,584	88.0%	2018年度	
道内客	万人	874	1,000	584	58.4%	958	95.8%	2018年度	
道外客	万人	362	450	204	45.3%	378	84.0%	2019年度	
海外客	万人	68	350	1	0.3%	272	77.7%	2018年度	
観光消費額	億円	3,743	7,000	2,183	31.2%	5,780	82.6%	2018年度	
単価	道内客	円	20,871	23,000	22,949	99.8%	22,949	99.8%	2017年度～
	道外客	円	35,823	50,000	27,847	55.7%	31,601	63.2%	2016年度
	海外客	円	86,378	120,000	93,627	78.0%	122,219	101.8%	2016年度
平均滞在日数	日	—	—	—	—	—	—	—	
	国内客	日	1.30	1.26	96.9%	1.35	103.8%	2019年度	
	海外客	日	1.27	1.40	2.05	146.4%	2.05	146.4%	2021年度
再訪意欲	%	45.0%	66.0%	61.9%	93.8%	61.9%	93.8%	2021年度	

## 現プランの検証

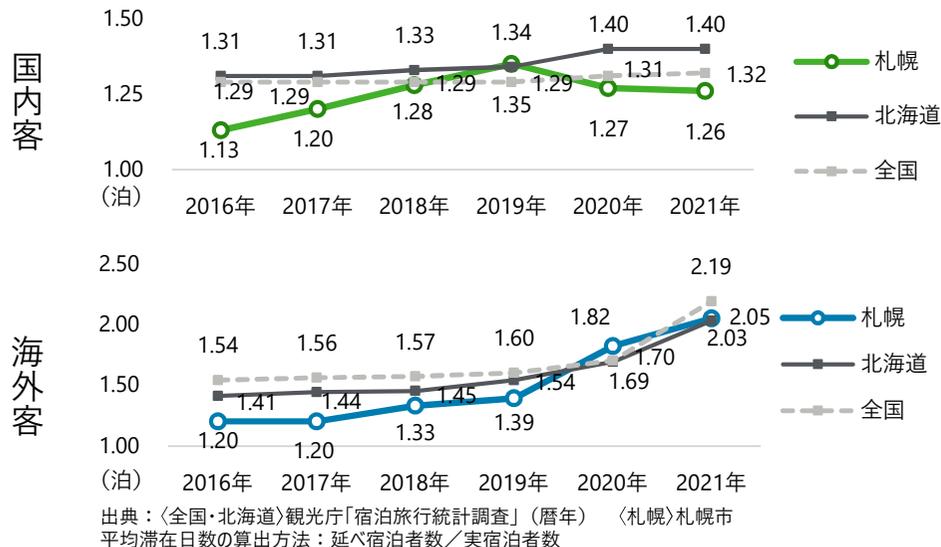
### 【年間来客数】

- 年間来客数は、2018年度まで着実に増加し目標の88%まで達したが、コロナ禍の影響が長期化し、最終目標には届かない見込み



### 【平均滞在日数】

- 平均滞在日数は2019年まで着実に増加してきたが、2020年以降はコロナの影響でサンプル数が少ないなど、評価が難しいところ



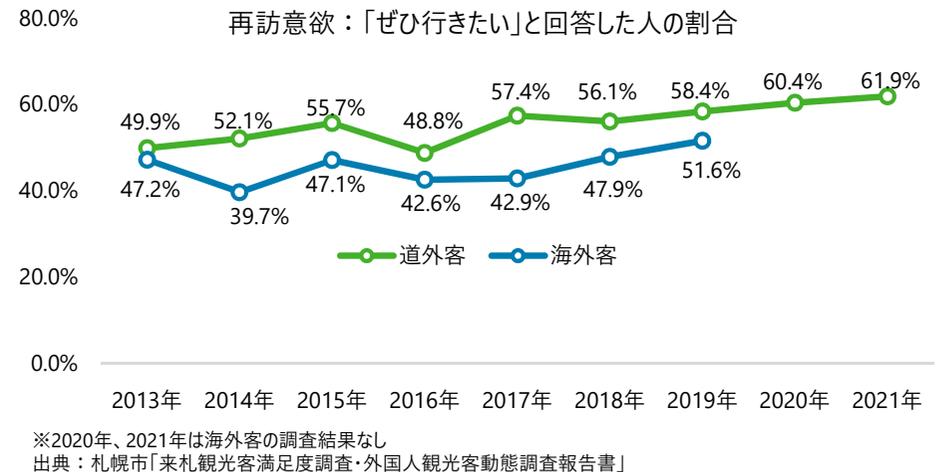
### 【観光消費額】【観光消費単価】

- 観光消費額は、コロナ禍の影響で最終目標には届かない見込み
- 観光消費単価は、2016年度以降は下落傾向



### 【再訪意欲】

- 再訪意欲は、道外客および海外客どちらも着実に改善してきたが、最終目標 (66%) までは乖離がある

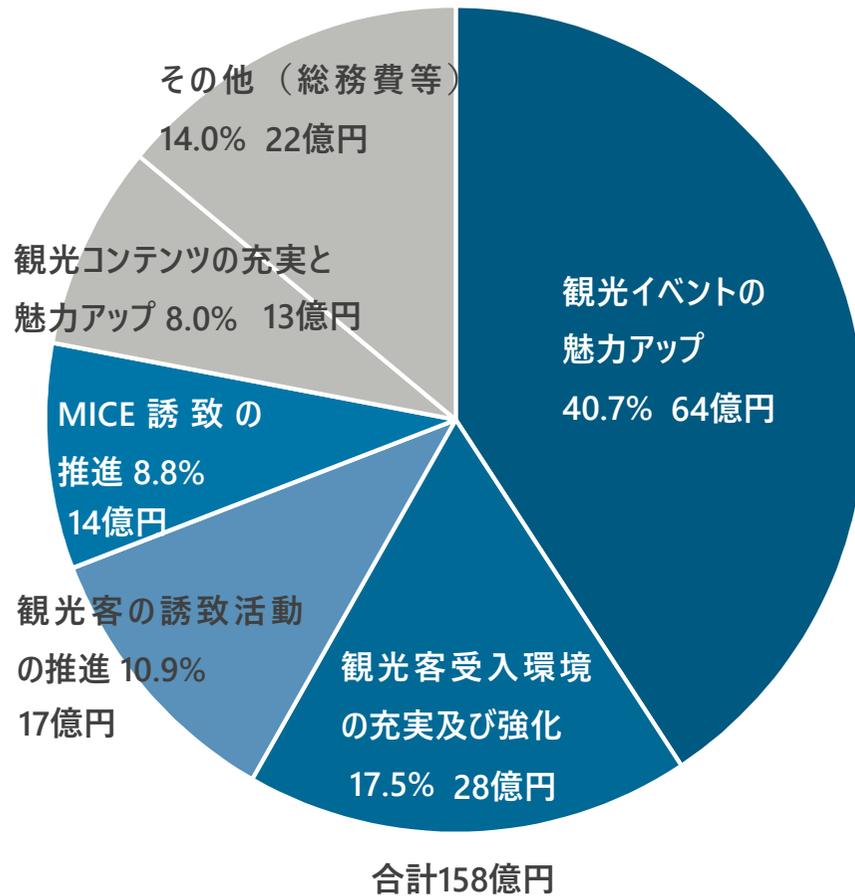


## 現プランの検証

### 【取組実績（事業費）からの評価】

観光・MICE推進部予算の施策別割合（10年合計）及び推移 ※コロナ対策・震災復興・MICE施設整備を除く

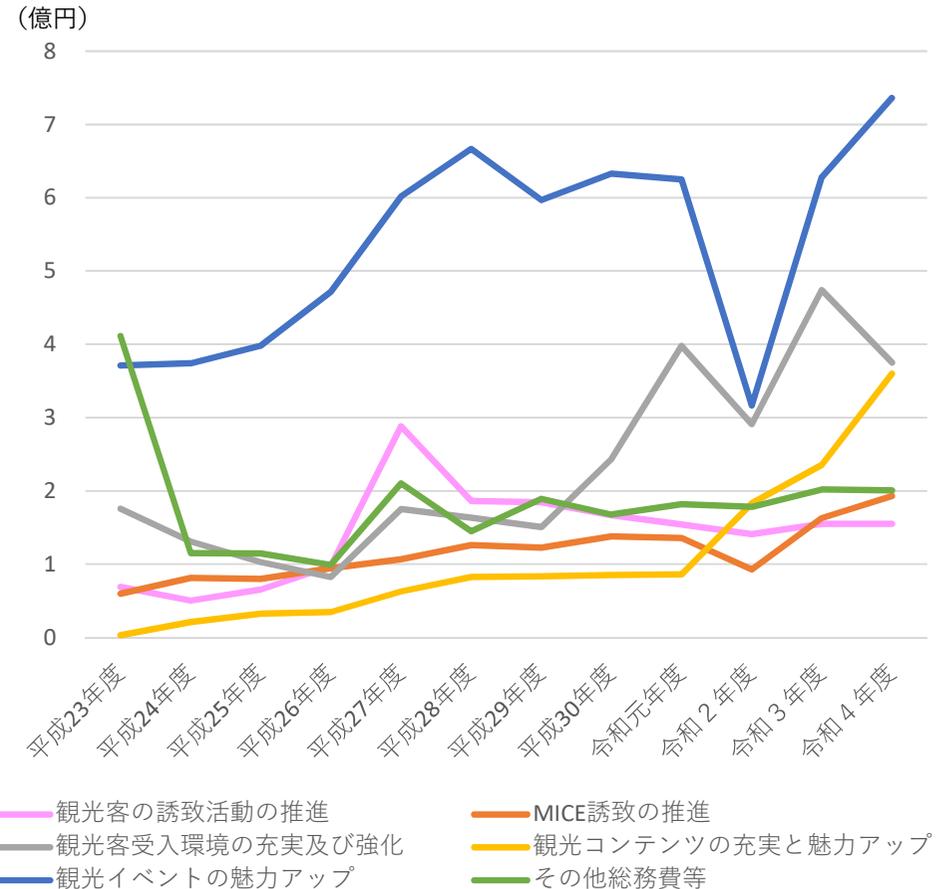
重点施策（改定後）別の事業費実績割合



#### 【割合】（10年合計）

- ✓ イベント関係が4割を占め、他と比較すると構成比が大きい。
- ✓ 観光コンテンツの充実と魅力アップは構成比が低い

重点施策（改定後）別の事業費推移



※令和2年度までは決算、令和3年度以降は予算

#### 【推移】

- ✓ 近年は観光客受入環境の充実及び強化、観光コンテンツの充実と魅力アップの増加率が高い

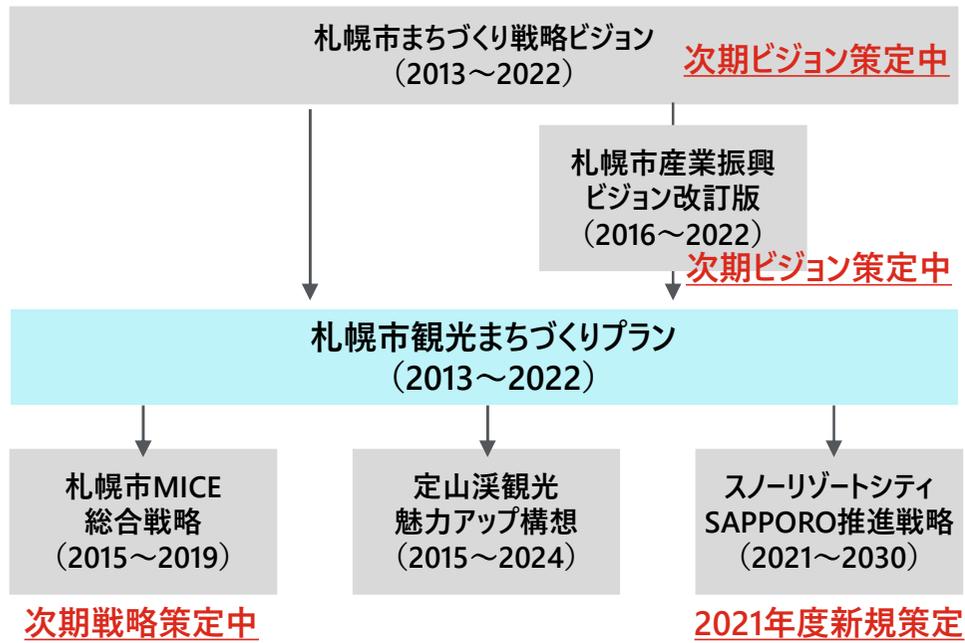
## 次期札幌市観光まちづくりプランの概要

### 【計画期間】

2023年度(令和5年度)～2032年度(令和14年度)の10年間

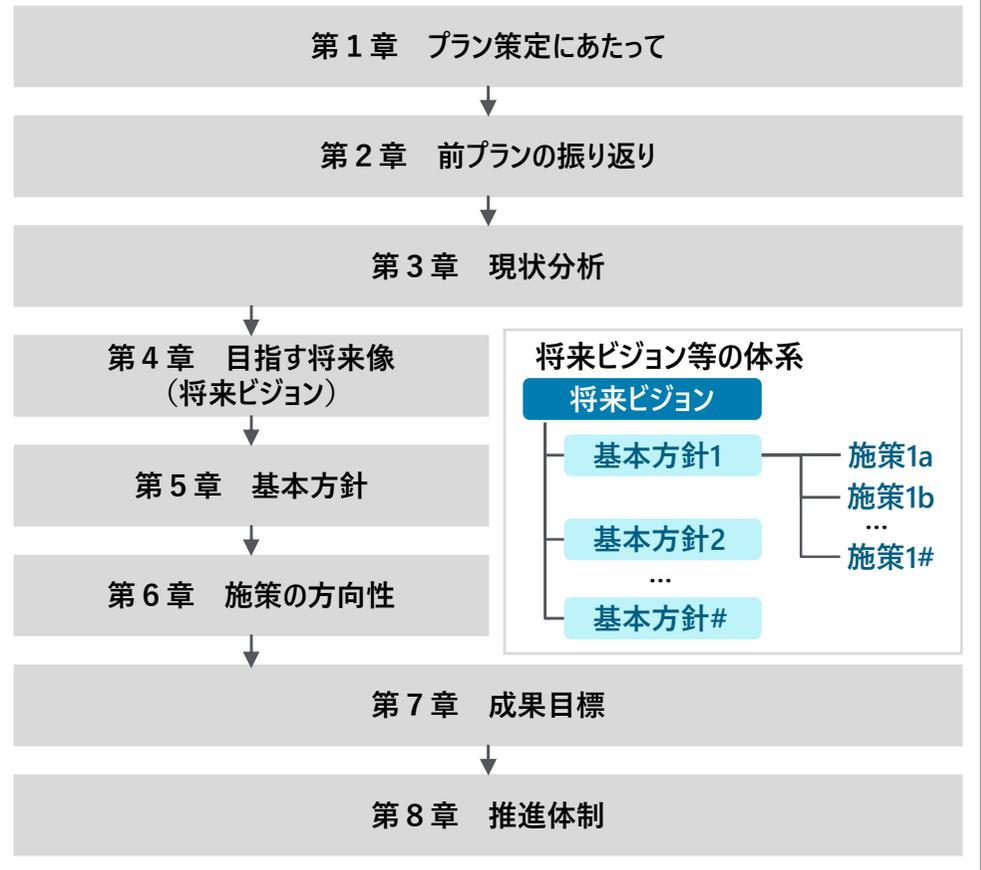
### 【プランの位置づけ】

- 札幌市まちづくり戦略ビジョンの個別計画として位置づけ
- 札幌市産業振興ビジョンにおける観光分野のアクションプランとしての性格も有する



### 【全体構成】

- 前プランの振り返りと現状分析を踏まえて、観光都市としての将来ビジョンを設定
- 将来ビジョンを実現するため基本方針および施策の方向性と成果目標を定め、推進体制を提示



## 現状分析

札幌の観光市場を取り巻く環境から、「強み」と「弱み」を整理した。  
 今後、他地域との比較や、事業者・市民ヒアリングを通じて、強み・弱みをブラッシュアップする。

## 強み

- 都市と自然が近い
- 雪が降る大都市
- 夏涼しい
- 梅雨がない
- スギ花粉が少ない
- 観光都市としての高いブランド力
- さっぽろ雪まつりの高い認知度
- オリンピックレガシー
- 食の魅力
- 都市部に近いスキー場
- 夜観光の魅力（すすきの、夜景）
- 観光スポット、温泉、スポーツ、文化、芸術、歴史等の多彩な観光資源
- 集客力の高い大規模イベント
- 満足度、再訪意欲が高い
- 道内周遊の拠点としての機能
- 宿泊施設の受入キャパが大きい
- LEED for Cities and Communities認証取得

## 弱み

- 繁閑差が大きい（冬季が閑散期）
- 欧米豪からのインバウンドが少ない
- 観光消費単価が低い
- 付加価値の高いコンテンツが少ない
- インバウンド受入環境整備が不十分
- 二次交通への満足度が低い
- 道外からの移動手段が限定的
- 悪天候による移動リスク（飛行機・JR）
- 定番コンテンツやイベントのマンネリ化
- 観光施設の老朽化
- ガイド等の観光人材が不足
- 様々な規模のイベントに対応できる施設が少ない
- 市民の観光に対する理解が不足
- 一体的、戦略的に取り組める推進体制にない
- マーケティング調査、分析が不十分

## 現状分析

札幌の観光市場を取り巻く環境から、「機会」と「脅威」を整理した。

## 機会

- 2030年冬季オリパラ開催の可能性
- 北海道新幹線の札幌延伸
- 都市部の再開発の加速
- ハイグレードホテルの建設ラッシュ
- 新千歳空港の機能強化
- 丘珠空港の滑走路延長
- 新たな広域周遊の可能性（道内空港一括民営化）
- コロナ禍からの回復期のリベンジ需要
- コロナ禍を契機とした新たな観光トレンド
- 新MICE施設の検討
- 2023年ATWS開催
- デジタル技術の発達（DXの推進）

## 脅威

- 国内人口減少（国内観光市場縮小）
- コロナ禍の影響の長期化（需要回復の遅れ）
- コロナ禍による観光客のニーズ変化
- コロナ禍によるMICEの在り方変化（ハイブリット開催等による現地参加者の減少）
- コロナ禍による観光事業者の経営体力、生産性、収益性の低下、観光業界の労働力不足
- 自然災害、気候変動、新たな感染症
- 特定地域からの往来停止リスク
- オープンジョーの加速による道内周遊拠点としての機能低下
- 都市間競争の激化（各地でDMO設置）

## 問題点の整理

現状分析をもとに問題点を整理した。

### ①観光客数

- ・人口減少による市場縮小の懸念（特に来札観光客の6割を占める道内客）
- ・需要の平準化が図られていない（事業者の経営や雇用の不安定要素）
- ・コロナ禍による影響（需要減、感染症対策やニーズ変化による少人数化）

### ②観光消費単価

- ・観光消費単価が低い（付加価値の高いコンテンツ少ない、滞在日数が短い）
- ・消費単価の高い富裕層、欧米豪の観光客が少ない

### ③受入環境

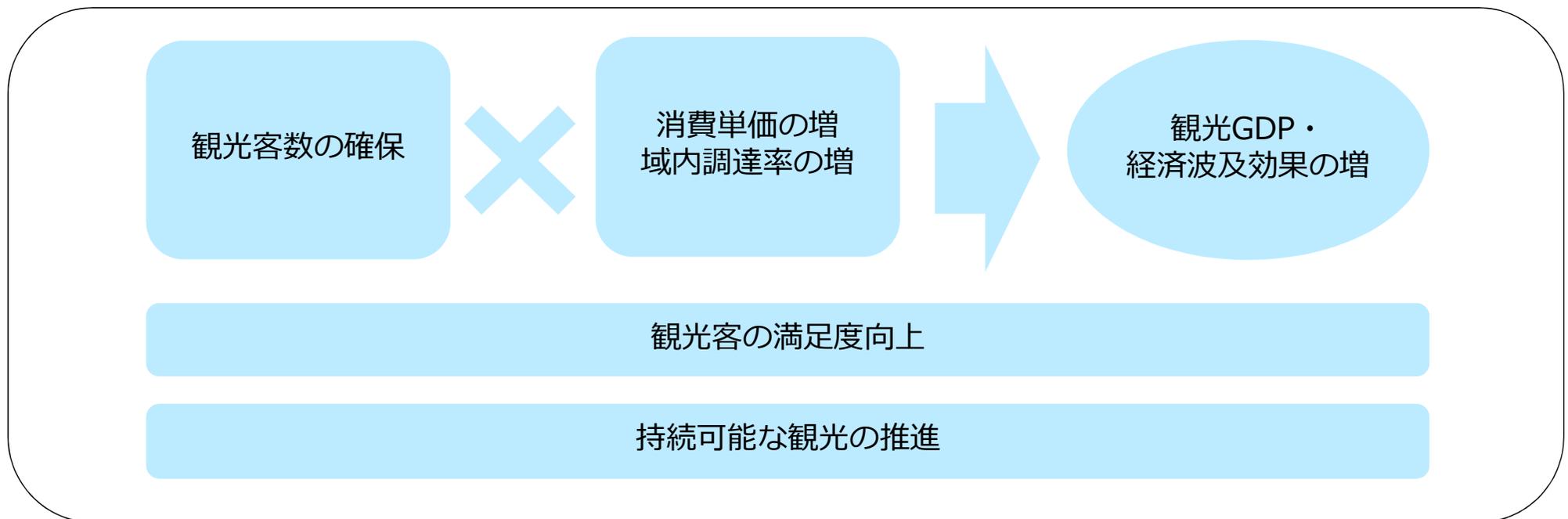
- ・インバウンド受入環境整備が不十分（多言語対応等）
- ・二次交通の満足度が低い

### ④持続可能性

- ・環境・社会文化・経済の影響に十分に配慮した観光への転換が求められている。
- ・自然災害、新たな感染症等に対する危機管理（災害対応、誘客多角化等）が不十分
- ・市民に観光の重要性に対する理解が十分に得られていない
- ・戦略に基づき一体的・継続的に取り組める体制にない（マーケティング・人材育成等）

## 取組みの方向性の整理

- ① 観光客数の確保 × ② 観光の質の向上（消費単価増・域内調達率増） による  
**観光GDP、経済波及効果の増**  
 ③ 観光客の満足度向上 による更なる誘客（口コミ）やリピーター確保  
 ④ 持続可能な観光の推進



**世界から旅行先として選ばれる都市へ**

## 取組みの方向性の整理

### ①観光客数の確保

- ◆ **コロナ回復期のリベンジ需要の取り込み**  
国内：早期回復のための需要喚起  
海外：インバウンド回復に向けたプロモーション
- ◆ **2030冬季オリ・パラをはじめとする機会を生かした飛躍的な認知度向上、欧米豪からの誘客促進**  
オリ・パラ、ATWS2023等の機会を生かしたプロモーションによる認知度向上、誘客促進
- ◆ **新幹線札幌延伸による新たな需要創出**  
ニセコ、函館、東北、ゴールデンルート訪問客の札幌滞在・周遊を促進
- ◆ **観光トレンドの変化を捉えた誘客**  
持続可能な観光（サステナブルツーリズム）、ワーケーション等の推進
- ◆ **閑散期対策、平日需要喚起**  
スノーリゾートの推進、MICE、大規模イベント、文化・スポーツイベント誘致等

### ②観光の質の向上

#### 消費単価増

- ◆ **都市観光と自然体験の融合など、札幌ならではの付加価値の高いコンテンツ造成**  
スノーリゾート、アドベンチャートラベル
- ◆ **少人数・高単価・高品質を意識したサステナブルな旅行商品の造成**  
コロナによるニーズの変化、サステナブルツーリズムの高まり等を踏まえた高付加価値商品造成への補助等
- ◆ **富裕層や欧米豪向けコンテンツ造成**
- ◆ **MICEの在り方変化に対応したMICE誘致**  
新たなニーズに対応した助成制度の創設、見直し等
- ◆ **大規模イベントの在り方見直し・リブランド化**
- ◆ **広域連携による滞在日数の長期化**  
周辺都市の魅力を一体的にPR+周遊促進

#### 域内調達率増

- ◆ **地域経済への波及効果を意識したコンテンツ造成**  
アドベンチャートラベルなど、地域への還元率の高いコンテンツ造成
- ◆ **地産地消や域内サプライチェーンの強化**  
先導的取組みへの補助等の事業者支援、他事業者への展開

## 取組みの方向性の整理

### ③観光客の満足度向上

- ◆ **満足度の高いコンテンツ造成**  
リピーター獲得につながる満足度の高いコンテンツ造成
- ◆ **公共交通の利便性向上**  
案内機能強化、多言語化、キャッシュレス化等
- ◆ **観光人材の育成**  
ガイド、観光案内所、ホテルスタッフ等
- ◆ **災害対応や感染症対策の強化・発信**  
非常用自家発電設備整備補助、情報発信強化
- ◆ **インバウンド受入環境整備**  
多言語化、キャッシュレス化、Wi-Fi、ハラール対応等

### ④持続可能な観光の推進

- ◆ **持続可能な観光の推進**  
先導的取組みへの補助等の事業者支援、地域としての国際認証取得に向けた調査等
- ◆ **マーケティングに基づき、一体的・戦略的に取り組める組織体制の構築**  
DMO設立も含めた推進体制の強化
- ◆ **市民の観光に対する理解促進**  
観光による地域経済・雇用への貢献、重要性に関する啓発
- ◆ **安定的な財源の確保**

# 推進体制

## 現状分析

観光は札幌の経済成長をけん引する極めて重要な産業である。国内人口の減少が進むなか、今後10年間の札幌観光を取り巻く大きな変化等に迅速に対応していくため、観光地経営（関係者との合意形成、データに基づく戦略構築、戦略に基づく企画・立案、一体的・効果的な施策の実施、PDCAサイクルの確立）の視点に立った観光地域づくりを実施していく体制が必要

## 今後10年間の大きな変化

国内人口の減少

持続可能な観光の推進

北海道新幹線の札幌延伸

など



変化に迅速に対応していくため、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを実施していく体制が必要

## 課題整理

現在の推進体制は、複数の関係団体等が観光施策を実施しており、地域一体となった観光振興に課題がある。また、短期間で異動する札幌市職員が中心となり、各種戦略の構築や事業の企画運営等を担っているため、ノウハウの継承やマネジメント人材・マーケティング等の専門人材の確保に課題があるなど、今後の変化の迅速に対応しながら、観光地経営の視点にたった観光地域づくりを実施していくには、現在の体制では限界がある。そのため、DMOの設立も含めた推進体制の強化についての検討が必要

## 現在の推進体制



DMOの設立も含めた推進体制の強化についての検討が必要

# 協議事項

<協議事項>

# 「札幌観光の取組の方向性や推進体制の検討」

## ①次期プランに関する論点

【札幌観光の現状分析について】

現状分析に不足、取り入れるべき視点等はないか？

【札幌観光の取組みの方向性について】

現状分析、問題点の整理を踏まえた取組みの方向性は？

## ②推進体制に関する論点

【札幌観光の推進体制】

観光地経営の視点で、札幌市が強化すべきことは何か？